

アジアの女性と子どもネットワーク

AWC通信

みなさまのおかげで

いつも私たちの活動にご理解、ご協力をありがとうございます。

1996年にAWCを立ち上げてから早いもので16年が経ちました。今年もスタディツアーに参加しました。私たちが初めて校舎建設したメーランカムスクールでは、建設当時中学1年生だった女性が、今は寮の先生として子どもたちの面倒をみえています。入学当初はカレン語しか離せない子どもも多いので、カレンの先生（寮母）がいることで、子どもたちもすぐに学校に馴染むことができます。

校舎で学ぶ子どもたちが将来はリーダーとして村を良くして行って欲しいと16年前に願ったことが実現していることに私は深い感銘を受けました。

メーランカムスクールとサンカンペン子どもの家では、今年から「かいこプロジェクト」を開始しました。この2つの施設で、プロジェクトの指導をしてくださる東京農業大学の教授と学生2名による“かいこ”についての授業が行われました。子どもたちは興味深々で熱心に授業を受け、質問が相次ぎました。子どもの家では私も桑の苗を植樹しました。子どもたちが「かいこプロジェクト」から大いに学び、成長してほしいと心から願っています。

アジアの女性と子どもネットワーク代表 マリ・クリスティーン



子どもの家の子どもと桑の植樹をするマリ代表

かいこプロジェクト



畝の前に、名前を書いた札があります

養蚕センターでの研修は3月なので、それまではチェンマイ県内の養蚕農家の方に教えていただく予定です。

代表のエーク先生は、自分で養蚕の本を読んだりして勉強をし、子どもたちに積極的に指導をしてくださっています。本当に頼もしい限りです。子どもたちも、自分の育てた桑を誇らしげに見せてくれました。

メーランカムスクールは、先日サタバ先生が子どもたちを連れて養蚕センターへ行きました。桑を植えるにあたってどういう場所が適しているのか、水やりのアドバイスなどを受けてきたそうです。メーランカムスクールは子どもの家と比べて寒冷地にあるので、桑を育てるのも少し難しいようです。3月の研修にむけて、徐々に準備が進められていく予定です。子どもたちはやる気満々のようです。



メーランカムで子どもたちが養蚕の授業を受ける様子

おなかいっぱいプロジェクト



家政婦さんを中心にクッキング！

現在、2人の子どもが他県の大学へ通っていますが、生活が厳しく、財団からの奨学金だけでは足りないそうです。1人はお寺から通っているので、食べるものは十分にあるようですが、もう1人（Mちゃん）は節約のため毎日インスタントラーメンを食べているそうです。AWCおなかいっぱいプロジェクトからの寄付の一部を彼女の食費として支援することも考えています。

このMちゃんは、学期休みになると子どもの家へ戻ってきてスタッフを助けています。子どもたちからの信頼も厚く、将来の目標になるような子です。Mちゃんは元ストリートチルドレンで、国籍ありません。困難な状況を自分自身の努力によって、希望ある人生へと変えようとしています。子どもの家にいる子どもも多いので、Mちゃんの支援だけをすることはできませんが、少しでも力になることができれば嬉しいです。

チェンセン子どもの家には63人の子どもと3人のお母さん（DVなどで保護されている）が暮らしています。一番小さな子は3カ月の赤ちゃんで、お母さんも子どもの家で一緒に生活をしています。年末年始や夏休み（4月）には他県の寄宿学校で学ぶ子どもたちが帰省し150人もの大所帯になります。今までは子どもたちが食事当番でメニューを考え、調理も行っていました。しかし、完全に子どもたちに任せてしまうと、つい自分たちが好きなインスタントラーメンや化学調味料を大量に使った献立になってしまうので、最近、調理専門の家政婦さんを新たなスタッフとして迎えたそうです。



男の子が増えました

書き損じはがき ご寄付のお願い

おなかいっぱいプロジェクトは、開始当初から皆さまからのご寄付と書き損じはがきのご寄付で実施されています。書き損じはがきや、切手など今後もお協力いただけますようお願い申し上げます。

東日本大震災支援事業 きらりんきっずへの飲料水支援

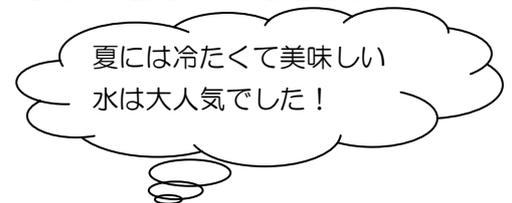
私たちは東日本大震災支援事業として、陸前高田市で活動している「親子のひろば きらりんきっず」を応援しています。「きらりんきっず」は2009年に陸前高田市から委託を受けて子育て支援活動を実施していましたが、津波の被害を受け建物が全壊しました。スタッフ全員が被災し、大変な日々を過ごす中、避難所生活では乳幼児を抱える親子のよりどころがなく、子どもを安心して遊ばせる場が必要との思いから、市内最大の避難所である陸前高田第一中学校の図書館を借りて活動を再開しました。

ミルクやおむつ、非アレルギー食などの配布を行う他、安心して授乳やおむつ替えができる場として、情報交換の場として、避難所で暮らす親子が元気を取り戻す場として多くの親子がここに集いました。

避難所の閉所に伴い、市内にプレハブでできた居酒屋の一室を借り受け、子育てを孤立させないために、工夫を凝らしながら親子の成長を支える活動を続けてきました。今年の6月には中小企業基盤整備機構の仮施設整備事業により、新しい広場がリニューアルオープンし、毎日多くの親子が集まっています。

AWCでは「きらりんきっず」が居酒屋に移動した時からエアコンやウォーターサーバーと寒さ対策の絨毯を設置する支援をしてきました。ミルクのお湯や冷たい水をすぐに飲むことができるウォーターサーバーは大変重宝されており、現在もサーバーのお水などの支援を続けています。

被災地に赴くたびに、震災の復興には時間がかかるということを実感しています。これからも私たちができることを、長く続けていきたいと思ひます。



AIDS孤児里親基金

ハウスオブラブ（愛の家）

現在、女の子が21人で男の子が9人の33人の子どもが暮らしています。昼間はデイケアセンターとしてチェンマイ市内のスラムから約50人の子どもたちが来て、先生から楽しい歌や踊りなどを教えてもらっています。ですから、一日中ここには子どもたちの元気な声が響いています。



スタディツアー参加者と記念撮影

今年度は、3人の子どもたちを新たに受け入れたそうです。1人は、パヤオ県出身の11歳の子です。お父さんの手によってチェンライのあるNGOの施設の前に捨てられたそうですが、HIVに感染しており、その施設では専門的なケアが出来ないため、ハウスオブラブにきたそうです。もう1人は、サラブリー県出身の同じく11歳でHIVに感染しています。両親は既に亡くなっていて、お姉さんが面倒をみていましたが、虐待の疑いがあることなどの理由でハウスオブラブへ来ました。もう1人は、13歳でチェンマイ市内のスラムから来た子どもです。

ハウスオブラブでは、30人の定員を上限に受け入れを制限していますが、政府の施設からの要請などで子どもが送られてくることもあります。



スタディでは礼拝に参加しました

希望の家

現在、女の子が21人で男の子が9人、5歳から21歳の計23人の子どもが暮らしています。子どもたちの親は、麻薬中毒やHIV感染、貧困などが原因で子どもたちを養育するのが困難な状態です。80パーセントの子どもたちには両親がいません。

新しい子どもも増えました。最年少は5歳の男の子です。母親は麻薬売買の罪で服役中、父親は麻薬中毒という家庭の子どもです。希望の家に来てから、精神的にも落ち着き、明るい笑顔を見せてくれるようになりました。

スタッフは3人ですが、手が足りない状態です。大きな子たちが小さな子の面倒をみています。私たちが見ていると、まるで本当の兄弟・姉妹のような様子です。しかし、特に父母のように厳しく・優しく育てているのでしょうか。小さな子たちは心を許して甘えている姿が微笑ましいです。実際、山岳民族の村では村全体で子育てをしているので、これが自然な姿なのかもしれません。

AWCからの寄付は、大学に通う2人の子どもの奨学金として使われています。この2人は日曜日の礼拝で、ギターを演奏するなど希望の家のリーダー的な存在です。

手づくりcafé

2012年2月より偶数月のボランティアデーで「手づくりCafé」を開催しています。

手仕事をしながら、AWCの活動の理解を深めていただければと始めました。

毎回楽しみにして来てくださる方もいます。作業中は話も弾み完成品にはみなさん感激されています。

今までの手づくりCafé

- 2月「うさぎのおひなさま」
- 4月「カレンシルバーのアクセサリー」
- 6月「アカ族の刺繍布を使ったマカロンストラップ」
- 10月「和紙で作るカードケース」
- 12月「ポンポンクリスマスリース」

※参加費1000円は経費を除いた分を事業費に充てています



楽しい時間を過ごしました！

これからも継続していく予定です（次回は2013年2月うさぎのお手玉予定）。まだ参加されたことがない方も是非ご参加下さい。

イベントのご報告

今年も国際協力イベントなどに参加し、AWCの活動紹介をすると共に、山岳民族の美しい手工芸品を紹介・販売しました。手工芸品を見て頂く事で山岳民族の暮らしを理解して下さる方も多く、刺繍や織物などを手に取っていただきながら、タイの話、活動の話をお伝えできました。

参加した主なイベント・バザー

- ・なか区交流ラウンジまつり@なか区交流ラウンジ 3月24日(土)
- ・あーすフェスタ2012@あーすプラザ 5月19日(土)20日(日)
- ・横須賀手工芸協会作品展@ 5月25日(金)
- ・児童労働撲滅キャンペーン@文芸学院大学 6月10日(日)
- ・ふれあい交流の広場@県民サポートセンター 7月3日(火)~5日(木)
- ・AIDS文化フォーラム2012@県民サポートセンター 【展示】8月3日(金)~5日(日)
【シンポジウム】8月4日(土)
- ・グローバル・フェスタ・JAPAN 2012@日比谷公園 10月6日(土)・7日(日)
- ・よこはま国際フェスタ2012@象の鼻パーク 10月20日(土)・21日(日)
- ・ポレポレまつり@本牧いずみ公園 10月27日(土)
- ・世界AIDSデーイベント@SOGO前広場 11月24日(土)
- ・シルキー・クリスマス@シルク博物館 【展示】12月1日(土)~25日(火)
【販売】12月16日(日)・22日(土)



民族衣装の試着体験も
大好評でした！



ご寄付を下された皆さま ご協力ありがとうございました！ ※順不同、敬称略

2012年1月~2012年12月

かいこプロジェクト：(株)センシン、阿部潔、五十嵐干恵子、池山洋二、榎本みつ枝、大野佐和子、岡部淑夫、尾崎知子、ガールスカウト山梨県支部、金井敏、金谷栄子、菊池幸江、橋田和子、小島みゆき、後藤紀久代、小松一郎、佐々木雅祥、佐藤志津子、佐藤真吾、佐藤利明、澤渡好子、宿利元子、神保隆二、ソロプチミスト広島、高嶋威男、巽司、田中恒之、田中雅明、茶木一城、中村田鶴子、西川公久、野沢良子、芳賀和代、花谷泉、ハピタットフレンズ仙台、原田瑠美子、堀江昭、三浦孝人、森川洋子、八島恵理、安元隆子、山崎誠

おなかいっぱいプロジェクト：青山 佳子、秋山洋子、阿部潔、五十嵐干恵子、池山洋二、伊藤いつき、榎本みつ枝、大谷洋子、大濱悦子、尾形登志雄、岡部淑夫、沖津久美子、尾崎知子、加川守男、川口幸博、北瓜一夫、小島みゆき、佐々木律、澤渡好子、神保隆二、鈴木八重子、鈴木勇、高品都、貴田晞照、竹内知珠子、巽司、寺尾和子、中島香織、長島道子、西川公久、服部清子、花谷泉、原輝美、福島郁子、福島緑、三浦孝人、武藤勝司、村田順子、百崎玲子、山本美恵子、吉池和子、吉岡啓子、渡会由紀、恵津子ジュリエットローズ

東日本大震災支援：阿部潔、板垣慈、伊藤康子、榎本みつ枝、大野佐和子、岡部淑夫、奥村徹、尾崎知子、神奈川県宅建協会、橋田和子、齊藤真美、四方山弘子・ゆう、重原文明、神保隆二、苗代碧、長谷川妙子、花谷泉、藤松産業(株)、柳原秀子

AIDS孤児里親基金：巽司、赤枝恒雄、赤間幸子、阿部潔、伊藤たま江、岩瀬佳子、岩井要、榎本みつ枝、岡本洋一、尾崎知子、橋田和子、相楽裕子、澤渡好子、神保隆二、ソロプチミスト広島、高橋清美、武井晴子、中島香織、西川公久、野中一良、花谷泉、早川すみえ、福島郁子、三浦孝人、渡会由紀、支援キルトの会ふーぶ、ベビーキルトかわさき

学校建設：川崎高一

一般AWC基金：齊藤徹、酒井ユリ子、林八重子、秋元千代子、朝廣玲子、高橋巍、川辺次郎、横山肇、ソロプチミスト横浜、新倉史朗、藤田美江子、岡田享子、幼き聖マリア修道会、恵津子ジュリエットローズ、阿部潔、赤枝恒雄、菊池ヨネ子、坂口育子、廣島みどり、福島郁子、岩井要、光の子どもたち、ファイバーリサイクルネットワーク、マリ・クリスティーン、山本博子、落合貴美恵、安藤芳子、清水雅子、原梓

書き損じはがき：相川治世、長島道子、三浦孝人、横山肇、浦田知寿子、北瓜一夫、川口幸博、嶋岡由吏、永瀬ゆかり、伊藤喜代治、蓮尾美代子、山口文子、小島敏子、岡部富士夫、秋山洋子、馬淵信彦、金田むつみ、高安照代、瀧田久美子、大森裕子、河本聡子、山崎範子、岡田靖子、菅原智恵子、巽司、堀江昭、山田はな江、高田ミチ子、原田幸子、朝廣玲子、中村田鶴子、伊藤恭子、村田順子、田口五月、内藤信義、田中哲夫、林八重子、岡部淑夫、遠藤早苗、松村絹子、半田あや、菊池幸江、後藤充希子、高橋巍、関野真二、茨木夢子、齊藤徹、廣島みどり、陣内信市、大江泰子、ガールスカウト日本連盟山梨県支部、佐藤真吾、日本バプテスト連盟キリスト町田教会、横浜清風高等学校インターアクトクラブ、花谷泉、梅田千絵里、高岡慎、速水朝子

※記載漏れ、間違いなどございましたらお手数ですが事務局までご連絡下さい。

送金報告

かいこプロジェクト:726,000円(2012年1月~2012年12月) 東日本大震災支援:336,840円(2011年7月~2012年12月)
AIDS孤児里親基金:133,170円(2012年1月~2012年12月) おなかいっぱいプロジェクト:138,670円(2012年1月~2012年12月)

発行責任者：山本博子 編集担当：安藤芳子、落合貴美恵、原梓



発行元：アジアの女性と子どもネットワーク

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9F YAAIC内

Tel/FAX 045-650-5430 E-mail : awc@h6.dion.ne.jp

URL : <http://www.awcnetwork.org>